



平成25年度の補正予算が成立しました

平成25年度の国土交通省関係補正予算は、「経済対策」、「復興、防災・安全対策の加速」などを目的に12,593億円が計上されました。当出張所管内においても、緊急的な老朽化対策として、大ザレ護岸工改築工事と金山・大河内砂防堰堤(えんてい)改築工事に466百万円の予算を付けていただきました。

大ザレ地区巨石張護岸は、激流により20cmを超える沈下が確認されたため、護岸の補修を行います。

金山・大河内堰堤は、土砂や岩石の流下により天端の摩耗が著しいため、従来は通常のコンクリートより2.5倍の強度を有する高強度コンクリートを施工しますが、今回は耐摩耗性、耐衝撃性に優れるゴムを使った新技術(ラバースチール)で補修する予定です。



大ザレ巨石護岸の沈下状況



金山砂防堰堤の天端摩耗状況(赤色部分)

入島地区の「山祭り」が執り行われました

梅ヶ島地区の山祭りは、いつ頃から始められたか年代は不明ですが、明治初期の出納帳に記載があるのでそれ以前から行われていたと思われます。梅ヶ島では毎年小正月の1月17日に、梅ヶ島の8町内(藤代・入島・大代・関の沢・本村・戸持・赤水・新田)で行われ、中でも入島地区は昔ながらの形式で行っています。伊勢参りをした者(代参)が上座に座り、奉行、副奉行が取仕切り、お酒を呑みながら、謡いをし(全部で29曲)、その年の山の安全を祈念します。

山の神が女性である事から女人禁制の儀式であったが、今では女性も参加して執り行われます。それが終わると代参達による銭撒きが行われ、拾った者には福が来ると言われています。古くからの儀式を現在も継承している入島の山祭り、とても厳かで重みがあり、身震いするほど迫力がありました。

(新村組 豊嶋)



入島地区の山祭り



代参による銭撒き

新田地区の石垣

梅ヶ島新田地区は、大谷川と三河内川の合流点上流に位置し、古文書によれば大谷崩により扇状地状に堆積して三河内川を堰き止め大池を形成したとあります。

その後、新田地区では、土石流の直撃を防ぐため家屋の周辺を石垣で囲んだそうで、今でもその一部が残されており、住民らによる土砂災害との戦いの日々を偲ぶことができます。



梅ヶ島新田地区に残る石垣

砂防堰堤(えんてい)の効果

安倍川は、国内でも最も急流で土砂生産の豊富な河川として知られ、降水量も多いことから過去より幾度となく土砂災害を被ってきました。

このため、昭和12年に内務省横浜土木事業所が大河内砂防工場という出張所を設置し、国の直轄砂防事業に着手しました。戦時中に中断された大河内砂防堰堤の昭和26年3月竣工を皮切りに、多くの砂防堰堤や流路工などが設置され、現在はその効果を発揮しています。

砂防堰堤は、土石流を食い止め、溪流を安定させ、安倍川沿いの県道や住居地域を守るとともに、満砂後も大洪水時には一時的に土砂を貯め、小洪水時に少しずつ土砂を流すなど土砂の調整機能があります。



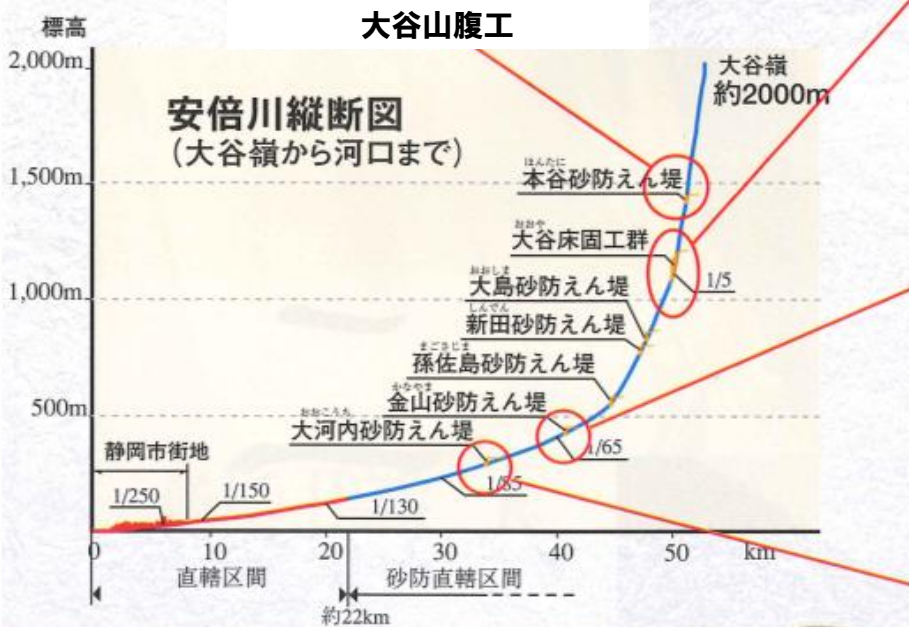
大島砂防堰堤、大島流路工



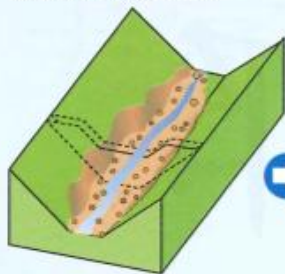
金山砂防堰堤(S31.1完成)



大河内砂防堰堤(S26.3完成)



●砂防えん堤の設置前
上流からの流出土砂を抑制するため、溪流に砂防えん堤を設置します。



●砂防えん堤の設置後
流れてくる土砂を貯め、流出土砂の抑制を行い、溪岸崩壊を防止します。



砂防えん堤
の効果

土砂が貯まることで、溪岸崩壊が防止される。

●砂防えん堤の満砂後
洪水で流れてくる土砂は、一時的に貯められ、洪水後に少しずつ流れ出し、流出土砂を調整します。



編集後記

暦の上では立春を過ぎましたが、まだまだ寒い日が続き、皆様、風邪などひいていませんか。また、ソチ冬季オリンピック観戦で、寝不足気味の方も多いのではないのでしょうか。体温が下がると、免疫力も落ちるそうなので、熱い鍋などを食べて体の芯から温まって、この寒い冬を乗り切りましょう。頑張れ、ニッポン!!



3月2日(日)に「梅ヶ島あまごます釣り大会」が行われます。会場は孫佐島下流より金山堰堤上流の区間です。詳細は安倍藁科川漁業協同組合まで。

皆様からの情報やご意見を募集しますので、以下までお願い致します。

Tel:054-269-2003、E-mail:http://www.cbr.mlit.go.jp/shizukawa/05_jigyuu/02_office/toiawase.html



雪の丸山橋下流崩壊地

